

## ヒグマによるリスクの軽減等の観点から留意すべき事項や禁止事項

利用者が知床半島先端部地区(知床岬方面)に立ち入る際にヒグマによるリスクの軽減等の観点から留意すべき事項や禁止事項は、次のとおりです。

### 〔知床半島先端部地区(知床岬方面)利用にあたってヒグマ対策に関する事項〕(「心得」より抜粋、一部加筆修正)

- (1) 事前にルサフィールドハウス、羅臼ビジターセンター、知床自然センターに立ち寄り、ヒグマによるリスクの軽減に関する最新の情報を入手し、十分な理解・学習を行うとともに、これらに対処する技術の習得に努めること。
- (2) 野営の際には、ヒグマに関わる事故を避けるため、テント場、調理・食事の場所及び食料保管場所をそれぞれ十分に(100メートル以上)離して設け、テント内に食料を持ち込むことは厳に避け、ヒグマが直接テントに誘引されないようにすること。
- (3) 就寝時は食料やゴミをヒグマに取られないよう「ヒグマ対策用携帯食料保管容器(フードコンテナ)※」の中に厳重に保管し、テントから離れた保管場所におくようにすること。  
※フードコンテナ無しに、テント外に食料などを置くと、ヒグマやキツネなど野生動物に容易に荒らされてしまい、人間の食料の味を覚えさせてしまうことになるのでフードコンテナの携行は必須です。  
※フードコンテナは、ルサフィールドハウス、羅臼ビジターセンター、知床自然センターで貸し出しが可能です。
- (4) テント周辺は「携帯式電気柵※」で囲うことを推奨する。  
※乾電池を電源とする持ち運び可能な簡易電気柵も販売されていますので、携行されることをお勧めします。
- (5) クマスプレー※、鈴等リスクの軽減、事故防止のための装備を備えること。  
※クマスプレーは、ルサフィールドハウス、羅臼ビジターセンター、知床自然センターで貸し出しが可能です。
- (6) 臭いが強い食料や持ち物はヒグマを誘引し、危険である。食料や持ち物はできるだけ臭いが発生しないものを選定すること。
- (7) エゾシカや漂着した海獣類等の動物の死体があった場合、ヒグマが餌付いている場合があり、餌を守ろうとするヒグマから激しい攻撃を受ける可能性があるため、不用意に近づかず、すみやかに離れること。
- (8) ヒグマと至近距離で不意に出会うことが事故の原因となることから、特に見通しの悪い植生地や場所では声を出す等あらかじめ人の存在を伝えること。
- (9) 常に周囲に気を配り、注意を払うこと。(特にサケマス遡上時期の河川等はヒグマが集まりやすい。)

※サケマスが遡上している時期、サケマスが遡上する川だけでなく、わずかに真水が海に流れ込んでいるような場所にも魚が波打ち際に集まり、それらを狙っ

てヒグマが出没しています。このような場所の近くでは、テント幕営しないようにしてください。

- (10) 夜間や薄明薄暮、濃霧の時等視界が効かない時には、突発的な遭遇が起りやすいので、なるべく行動しないようにすること。
- (11) ヒグマに対して絶対に餌を与えないこと。
- (12) 進行方向にヒグマを目撃した場合は、ヒグマを刺激しないように引き返す等適切に行動すること。
- (13) 食料やゴミを取られたり、人や食料に意図的に近づく個体が確認された場合は、速やかに引き返すこと。(取られたものは取り返さないこと。)
- (14) 食料やゴミなどヒグマを誘引する物を含む荷物を途中に一時置いて行動すること(いわゆるデポ)は絶対に行わないこと。
- (15) 食料やゴミを取られたり、人や食料に対して意図的に近づく個体が確認された場合、あるいは追跡を受けたり、事故が発生した際には、他の「利用者」のリスクの軽減のため、ルサフィールドハウス、羅臼ビジターセンター又は知床自然センターのいずれかに速やかに通報すること。

※人に接近してくるヒグマと遭遇したり、荷物を野生動物に荒らされたりした際には必ず、帰路、これらの施設に立ちよって情報を提供してください。次の利用者のリスクの軽減のために重要な情報となります。このほか、環境省自然保護官事務所、羅臼町役場などでも情報を受け付けています。

※フードコンテナ及びクマスプレーについては、知床財団ホームページ参照のこと。

([http://www.shiretoko.or.jp/bear/bear\\_10.htm](http://www.shiretoko.or.jp/bear/bear_10.htm))